

特集

東大医学部 衛生看護学科

—その目指すもの—

初の新卒生を送る

昭和二十八年四月、医学科、薬学科と並んで東大医学部の一学科として新設された衛生看護学科が、来春いよいよ第一回の卒業生を送り出すこととなり、医学界に新しい風を吹き送るものとして、今後の活躍が注目されている。

【その目指すもの】
当学科は、従来の看護が単に医師の治療(処置)の補助、下働きに過ぎず、積極的な患者への動きかけに欠けていたのに対して、看護本来の患者を中心とした患者の立場に立つた真の看護学を樹立し、且つ教育する目的で生理学の福田教授を学科主任として旧附属医専の跡である東大分院に設立された。即ちその目的とするところは、単に医師の命令を待つて行動するのみでなく、更に病氣と病人を理解しこれに積極的の食事や摂生あるいは受診などの適当な療養の指示並びに管理を行うことが出来、病院外に出れば公衆衛生学的見地の下に民衆の健康管理、保健教育の出来る医学的知識と看護技術を持った人間を養成することにある。

【教育システム】
このためには衛生看護学科学生として募集された一学年約四十名の女子学生は、前期一年半を駒場の教養学部で、他の東大各科学

生と同様に広く一般教養を修め、後期一年半においては雑司が丘東大分院で基礎臨床各科の専門課程を履修する。
専門課程の内容は大きくわけて、基礎・臨床各医学・看護学及び公衆衛生学よりなり、これにそれぞれ実習が附随するが、医学の授業は殆んど医学生なみのものでありそれに看護学としての解釈がつけ加えられる。例えば栄養学においては、腎臓病の患者の食事が無塩食で、カロリーが幾らと教わるのは勿論のこと、更にそれをいかに工夫したら患者に食欲を起させ得るかという点にまで考慮が払われる如くである。そして全般を通じて特に顕著なことは、医学も看護学も、公衆衛生学的思想によつて統一し教育されていることである。

【卒業後の資格】
以上のような意図と授業内容で四年間教育された学生は、卒業すると衛生看護学士となるが、将来大衆衛生関係、保健教育関係の各方面で活躍が卒業後の資格は次の如くである。

衛生看護学科新卒生就職状況調

就 職 先	卒業生数	決定(含確実・内定)	未定
労働基準局監督官	1	1	0
事業場の衛生管理者 (三菱金属鉱業, 警視庁, 国鉄等)	6	6	0
都市のヘルス・ワーカー (横浜市衛生局, 東京都衛生局等)	3	3	0
臨床看護関係 (当学科, 三井厚生病院, 養育会病院等)	5	5	0
研究所技官 (労働衛生研究所, 東大放射線科等)	4	4	0
保健衛生教師 (中・高校教諭, 大学助手)	4	1	3
計	23	20	3

備考：本クラスは入学当時32名、内、留年者5名、中退4名、差引卒業見込者23名(11.22現在)

看護婦、保健婦に關してはこれを受験する資格があり、事業所の衛生管理者、学校養護教諭、衛生教育指導員、保健及び理科教員 Clinical Psychologist は無試験で、その資格を得ることになる。
これらの中で説明を要するものとして看護婦があるが、世上に流布されているが如く、直ちに婦長にされるというふうな意味はなく、普通処遇(官庁なら初任給は六級一母)で就職するが、その内容が買われたら婦長にもなるであろうという程のものである。然しその内容からして今後看護関係の中核的存在になることはけだし当然のことと考えられる。

【結語】
以上の如くして、衛生看護学科は臨床及び公衆衛生の面において、本当ではなかつたか。